

平成27年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第2号
(5月の発生予想)

平成27年4月30日

【作物名】 病害虫名	予報内容 (発生量：平年比) 発生程度： 発生時期：平年比)	予報の根拠
---------------	---	-------

【水稲】

イネドロオイムシ	量：並 時期：やや早い	① 前年の被害は全般に平年並(±)。 ② 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。(±)
イネミズゾウムシ	量：並 時期：やや早い	① 前年の被害発生量は平年並。(±) ② 4月下旬の高温により成虫の水田侵入時期は平年よりやや早いと推定される。 ③ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。(±)

【大麦】

赤かび病	量：並～やや少ない 時期：やや早い	① 前年の発生量は平年並で、伝染源量は平年並。(±) ② 出穂期は平年よりやや早い。 ③ 出穂期頃の気温は高く、降水量は平年並と予想されている。(±～-)
防除上の注意事項		
① 開花期から乳熟期に曇雨天の日が多いと発生しやすい。 ② 薬剤防除の適期は穂揃い期とその7～10日後であり、2回散布する。 ③ 本年の出穂期は平年よりやや早い～早いと見込まれ、防除適期を逃さないよう注意する。		
雲形病	量：少ない	① 4月末現在、未確認。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。(±)

【なし】

黒斑病	量：やや多い 時期：やや早い	① 前年の発生量は平年比やや多かった。(＋) ② なしの生育は平年比4日程度早く、感染時期は平年比やや早いと予測される。 ③ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。(＋)
黒星病	量：やや少ない 時期：やや早い	① 前年の発生量は平年比やや少なかった。(－) ② 4月下旬の花葉そうの発病は平年並に未確認である。(±) ③ なしの生育は平年比4日程度早く、感染時期は平年比やや早いと予測される。 ④ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。(－～±)

【作物名】 病害虫名	予報内容 (発生量：平年比) 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--	-------

【なし】(つづき)

ナシヒメシクイ	量：並～やや多い 時期：やや早い 第1世代幼虫のふ化盛期：4月第6半旬～5月第1半旬	① 越冬成虫のフェロモントラップ初誘殺は、4月第2半旬に確認され平年比早い傾向。 ② 4月第5半旬までのフェロモントラップ誘殺数は、平年並～やや多い。(±～+) ③ 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(+)
ハマキムシ類	量：並 時期：並 発蛾最盛期：6月第1半旬	① 前年の発生量は平年比やや少なかった。(－) ② 中越地域では4月下旬に越冬世代幼虫が確認された。発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(+)
アブラムシ類	量：並 時期：やや早い	① 4月下旬現在、発生は未確認。(±) ② 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(+)

【もも】

せん孔細菌病	量：やや多い	① 前年の発生量は平年比やや多かった。(＋) ② 向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。(±)
モモハモグリガ	量：やや多い 時期：やや早い ふ化盛期は4月下旬	① 前年秋季のフェロモントラップ誘殺数は平年比多く、越冬密度は高いと推測される。(＋) ② フェロモントラップの誘殺盛期は4月第3～4半旬頃で、平年比やや早い。 ③ 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(＋)

【冬春トマト (施設)】

灰色かび病	量：やや多い 程度：少発生(果実発病度1～20)	① 4月下旬の果実の発病は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は平年より高く(－)、降水量は平年並(±)と予想されている。
コナジラミ類	量：やや多い 程度：少発生(寄生株率1～25%)	① 4月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(＋)
アザミウマ類	量：やや多い 程度：少発生(寄生株率1～25%)	① 4月下旬の発生は平年並に未確認であった。(±) ② 今後、施設が開放され、成虫の飛び込みが増加する。(＋) ③ 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 (発生量：平年比) (発生程度： 発生時期：平年比)	予報の根拠
---------------	--	-------

【冬春いちご（施設）】

うどんこ病	量：やや多い 程度：少発生(発病果 率1～5%)	① 4月下旬の果実の発病は平年比やや多い。(+) ② 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。(+)
灰色かび病	量：やや少ない 程度：少発生(発病果 率1～5%)	① 4月下旬の果実の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年より高く(－)、降水量は平年並(±)と予想されている。
アブラムシ類	量：並～やや多い 程度：少発生(寄生葉 率1～25%)	① 4月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(+)
コナジラミ類	量：並～やや多い 程度：少発生(寄生株 率1～25%)	① 4月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(+)
アザミウマ類	量：並～やや多い 程度：少発生(寄生花 率1～20%)	① 4月下旬の花への寄生は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(+)
ハダニ類	量：並 程度：少発生(寄生株 率1～40%)	① 4月下旬の発生は未確認で平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(+)

【アブラナ科野菜】

コナガ	量：並	① 園芸研究センターのフェロモントラップへの誘殺は4月第5半旬まで未確認で、平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。(+)
-----	-----	--

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照のこと ～

注1：「予報内容」の発生量は、平年対比の予想発生量（少ない、やや少ない、並、やや多い、多い、で表記）。また、「発生程度」は最も頻度が高いと予想される発生量の程度で、発生予察事業の調査実施基準等に基づく階級（無、少、中、多、甚、で表記）を示す。

注2：「予報の根拠」の（+）は、発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因を示す。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

- 農薬は使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- 農薬の使用基準(適用作物、使用量(希釈倍数)、使用回数、使用時期(収穫前使用日数))を厳守しましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、必要に応じて周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、7日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病虫害防除所業務課

電 話 : 0258-35-0867

F A X : 0258-35-7445

U R L : www.pref.niigata.lg.jp/bojo

【参考】北陸地方 1か月予報（5月2日から6月1日までの天候見通し）

（新潟地方气象台：平成27年4月30日発表）

<特に注意を要する事項>

期間のはじめは気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	10	30	60
降 水 量	30	40	30
日照時間	30	40	30

<気温経過の各階級の確率（%）>

	低い	平年並	高い
1週目（5月 2日～5月 8日）	10	20	70
2週目（5月 9日～5月15日）	20	40	40
3～4週目（5月16日～5月29日）	20	40	40